



森ボラ 通信

第 237 号 2022 年 2 月 20 日発行
NPO 法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸 1 条 1 丁目 8-8 ラルズ生活研究センター
TEL. (fax.): (011) 816 - 7010
E-mail: hshinrin2002@nifty.com

■ 活動報告

◆ 第 2 回冬季セミナーを開催

柿澤講師より「市民による森林づくりをめぐる最近の動き」を聴く

1月20日、札幌エルプラザにおいて冬季セミナーが開催されました。前半は会員例会として清澤さんから澄川都市環境林の今後のあり方に関する札幌市との協議経過の報告をしていただき、松藤さんから森ボラ救急対策と合田さんから救急蘇生法の流れを解説していただきました。

後半は北海道大学大学院農学博士の柿澤教授より「市民による森林づくりをめぐる最近の動き」と言うテーマで講演していただきました。

森林ボランティア活動の現状と課題、市民参加の森林づくり・里山づくりに向けた行政や林業のプロ等と連携した新たな取組、将来に向けた木育活動での新たな連携や森林環境譲与税の活用等々、たくさんの事例を交えてお話をして頂きました。

知識も経験もない森ボラ一年生の私は、正直なところ「地味でマニアックな活動の世界」と認識していましたが、今回の講演で非常に裾野が広く活動のバリエーションも豊かな分野だったことに驚き、年甲斐もなくワクワク感いっぱい90分を過ごさせていただきました。

個人的には林業のプロ(事業者・作業員)や森林所有者と協業した「自伐型林業・ソーシャルビジネス」活動や他の団体との連携・交流と言う点に興味を持ったのですが…。

ただ私自身は、よく考えると「先の事よりまずは一人でも手鋸で整理伐ができるようになる」これが当面の目標でしょうか！？

帰宅後さっそく紹介されていた活動・団体をネットで検索し、改めて感動しています。

(文・山口)



◆ 澄川南小 4 年生の自然観察会を支援

1月21日、ぱあっと晴れたかと思うと、にわか雪が降りしきる妙な天気の日でした。まあまあ気温も低くはないし、森の中を歩き回るとはいいかもね…という中、当日は澄川南小の4年生53名と先生3名が澄川都市環境林北地区を訪れ、昨年秋口に樹名板を備え付けたマイツリーを中心に、冬の森の観察会が行われました。



班に分かれて、冬のマイツリーを観察

まずはそれぞれのマイツリーが、葉が落ちて雪が積もったらどんな風に変わっているか、それから周りの様子や動物の足跡など、目に付くものをグループ毎に分かれて観察します。一人でずーっと奥まで行っちゃう子、傾いて雪に埋もれたツリーを救出しようとおじさん（私）に助けを求める子、私は個人的には、森の観察もさりながら10歳児たちの生態観察が面白かった。

小1時間ほど思い思いに遊んだ後は集合、酒井長老からの、ホオノキとシナノキの枝を題材にした「冬芽について」という講話に聞き入ります。木は冬には眠っていること、冬芽（昔はトウガと言ったが今はフユメでもいいとか）は夏にできて、冬を越し、春になるのを待っていること、それが花の芽か葉の芽かは見てもわからないこと、ホオノキは北海道の木で一番大きな花をつけること、「頂芽」が伸びて、てっぺんを形成すること…などなど、大人が聞いても勉強になるお話の数々です。

最後、「質問は？」と振られると、次々に手が上がりました。なかなか積極的ですねえ。「芽（頂芽）がなくなっちゃうとどうなるんですか？」「一番高くなる木はなんですか？」など、微笑ましくも鋭い質問が飛び出して、それぞれに森や木への興味が育まれているなあ、と感心の日でした。（文・早坂）



酒井さんの冬芽の話に聞き入る

◆ 初めて整理伐を体験する！

1月18日、入会後初めてとなる整理伐(手鋸)に参加させていただきました。

当日は冬なので当たり前寒いものの、風や降雪はなく、穏やかな気候に恵まれました。整理伐エリアはD地区を担当。ベテランの加藤さんと一緒に回り、色々教えていただきました。

既に整理伐対象の印をつけた木を探しながら傾斜を登るのですが、雪が深く、スノーシューを履いていても足をとられて想像以上に体力を奪われました。（汗）



金谷さんがチャレンジしてるのはキタコブシ

対象の木を見つけ、初めて木を伐る作業に入りますが、周りに人がいないか、倒す木に葛などの絡みはないか、枝が他の木にひっかからないかなどを確認し、さらに木の重心にも配慮しながら倒す方向を決めて、支給された笛を吹いてから鋸を入れていきます。鋸も倒す方向に受け口を、反対側に追い口を入れて、ゆっくりと木が倒れるように気をつけて作業していきました。初体験ということもあり緊張しましたが、なんとか思い描いた方向に倒すことができました。討伐後は木を2m程の長さに細断し、利用できる木は後で回収できるようにまとめて置きました。



まだまだ木の名前も、また何に再利用できる木なのかも判断ができず、加藤さんにその都度ご教示いただきながら作業しましたが、大変勉強になりました。今後はロープの使い方なども覚えていきたいと思えます。

(文・金谷)

■ おしらせ

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組みのお願い

猛威を振るっているオミクロン株ですが、札幌市も新規感染者の高止まりと医療提供体制の逼迫した状況が続いている中、森ボラが活動する周囲にも確実に感染リスクは高まってきており、予断を許さない状況です。事あるごとに感染予防の徹底をお願いしておりますが、今一度予防の徹底と濃厚接触者もしくは感染した場合の速やかな連絡をお願いいたします。少しわかりにくいですがホームページ「事業報告・データ集」→「データ集」に「新型コロナウイルス感染予防および感染拡大防止に向けた森ボラの取組み」を掲載しておりますので、今一度ご一読ください。(事務局)

■ 澄川の自然 30

ツルマサキ (ニシキギ科)

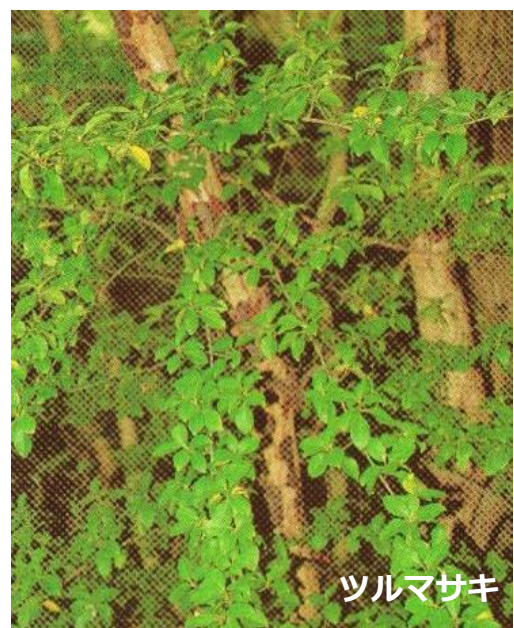
上流橋と中流橋のちょうど中間辺り、湿地帯の中にヤチダモの木があり、その2・3本の木に付着根を出して這い上がっています。

常緑樹です。葉はお正月、神棚に使うマサキより小形でやや細長く光沢があり革質。

花は6月～7月頃咲く様なのですが、丁度その頃、湿地帯は数本の水の流れが出来、倒木もあり、背の高いイネ科の雑草有りで、長靴でもぬかるんでなかなか近づけないでいます。

写真は「野山の樹木・観察図鑑/岩瀬徹著」の中によく似た風景がありましたので紹介します。ちょうどこんな様な感じで沢の中に茂っています。ツルウメモドキ、ニシキギ、ツリバナの仲間です。

(文/西野(澄))



ツルマサキ

■ 今月の幹事会

出席者(2/9):大窪・樞棒・清澤・松藤 (コロナ対策のためにスタッフにて開催)

1. 2022年3,4月活動スケジュール(3月幹事会3月9日(水)):コロナの状況を注視、
2. 2022年1月末会計報告と今年度決算予測:了承。
3. 2021年度森林・山林多面交付金事業1月の活動報告:会計締切りを了承。
4. 第6回親子森林教室の開催:予定通り準備。
5. 親子森林ボランティア制度(コモドの森)について:2022年度から試行。
6. 現場報告
 - ・整理伐進捗状況:D-1,3,4区からE-7区に入る。
7. その他
 - ・CGC 烏柵舞の森最終年事業について:CGCから記念植樹の提案。詳細打合せ必要。
 - ・20周年記念専門委員会:予算案の提示。記念誌・記念品・実演会の準備を進める。
 - ・(株)じょうてつのCSR活動受入れ:澄川環境林にて活動予定。詳細打合せ必要。
 - ・(株)工成舎のCSR活動ヒアリング:野幌国有林での活動を希望。まず体験入会を勧めた。
 - ・旅費等の会員口座振り込み:さらに検討。
 - ・2022年度の役割分担:詳細検討必要。

■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
1月18日(火)	澄川	17	D-3,4区整理伐(手ノコ)
1月20日(木)	札幌エルプラザ	20	会員例会、講演:北大柿澤教授
1月21日(金)	澄川	14	澄川南小4年生観察会、D-1,3,4区整理伐
1月23日(日)	澄川	9	D-1,4区整理伐
1月26日(水)	澄川	10	D-1,3,4区整理伐
1月29日(土)	澄川	13	D-3,4区整理伐、E-4区避難小屋雪下ろし
1月31日(月)	澄川	14	D-3,4区整理伐
2月3日(木)	澄川	13	D-3,4区整理伐、ホダ木採取
2月5日(土)	澄川	12	E-7区整理伐(手ノコ)、親子森林教室準備
2月8日(火)	澄川	12	親子森林教室準備、除雪
2月9日(水)	ラズ生活研究センター	4	幹事会(コロナ対策としてスタッフのみにて開催)
2月11日(金)	澄川	14	E-7区整理伐、親子森林教室準備、ホダ木採取
2月13日(日)	澄川	16	第6回親子森林教室(伐採体験、冬芽観察など)
2月15日(火)	澄川	13	E-7区整理伐(手ノコ)、ホダ木採取、親子森林教室準備